

長野県の特性（専門委員会議での検討状況）

1 自然や文化などの地域色の豊かさ

長野県は、全国第4位の広さを誇る県土を有し、広大な森林が澄んだ水や空気を育んでいる。

南北に長く標高差もあることから、北部の豪雪地帯や比較的温暖な南部地域などの多様な気候を生み、地域ごとに特色ある自然環境に恵まれている。

県内では野菜、果樹、花き、きのこなどの園芸作物や、米、畜産など、バラエティーに富んだ農産物が生産されている。また、大消費地である三大都市圏に近い有利性などから、レタスやりんご、えのきたけなど全国シェアが上位の品目も多い。

豊かな自然に加え、温泉、スキー場や、地域で受け継がれた有形無形の多様な文化、自然と人との関わりによって育まれた農村の美しい原風景などを求め、四季を通じて多くの観光客が訪れるとともに、グリーンツーリズムなどを通じた交流が活発化している。

本県には、水力やバイオマスなど自然を活かしたエネルギー資源が豊富に存在するとともに、日照時間の長い地域が多いため、太陽光・太陽熱の利用に適した地域が多くなっている。

祭りやコミュニティ活動が盛んな地域が多く、人と人とのつながりや支え合いを大切にする精神など、人の温もりや絆が息づいている。

2 健康・長寿

長野県は、全国より早く高齢化が進む一方で、老人医療費が低く、平均寿命は男性が全国第1位、女性が全国第5位と、全国トップレベルの健康長寿県となっている。これは、豊かな自然の中でゆとりを持って生活していること、長年にわたる地域に根ざした保健活動や農村医療と呼ばれる在宅医療・ケアによって醸成された県民の健康に対する高い意識によるものと言われている。

在宅等死亡率が全国一高くなっており、高齢者が地域の中で人生を全うできるための取組が根づいている。

高齢者の就業率が全国一高く、高齢者が生きがいを持ちいきいきと働いているなど、県民の働く意欲の高さも健康長寿の大きな要因となっている。

3 交通ネットワーク

長野県は、日本列島のほぼ中央に位置し、県歌「信濃の国」にも歌われるように「十州」(8県)と接しており、古くより東山道、中山道などが通る交通の要所となってきた。

首都圏・中京圏から200km圏内に位置し、アクセスしやすい地理的条件となっている。

中央自動車道、長野自動車道、上信越自動車道の全線開通、また北陸新幹線長野・東京間の開業などにより、本県の高速度交通ネットワークは飛躍的に整備されてきた。その結果、東日本と西日本、太平洋側と日本海側をつなぐ結節点として、人の交流や物流が活発となっている。

今後、北陸新幹線の長野・金沢間の開業や、リニア中央新幹線の東京・名古屋間の開業のほか、中部横断自動車道や三遠南信自動車道、中部縦貫自動車道などの整備が進められており、国内はもとより、海外との交易や外国人観光客の集客に大きく寄与することが期待されている。

4 旺盛な企業家精神

県内の製造業は、県内総生産の26%を占め、長野県を支える基幹産業となっている。また、製造品出荷額のうち加工組立型産業が65%を占めている。

本県のものづくりは、明治期の製糸王国の時代から、時代の変遷による産業構造の変化に柔軟に適応し、戦前から戦後期のカメラ、時計等の精密機械工業、そして現在の電子、情報、自動車部品等の分野へと発展してきた。このように本県には、果敢に挑戦する企業家精神と、ものづくりの技術が脈々と受け継がれている。

ブランド力のある大手企業が少ない反面、独自の技術で部品加工を担う中小企業が多く、超精密・超微細な加工技術などを得意とする産業集積のもとで、ナノテクノロジーなどの優位性のある技術を活用した新たな産業集積の芽が育ちつつある。

平成24年には青年技能者の技能レベルを競う「技能五輪全国大会」の開催が予定されており、これを契機として、ものづくり産業を担う人材育成や熟練技能の維持・継承が期待されている。